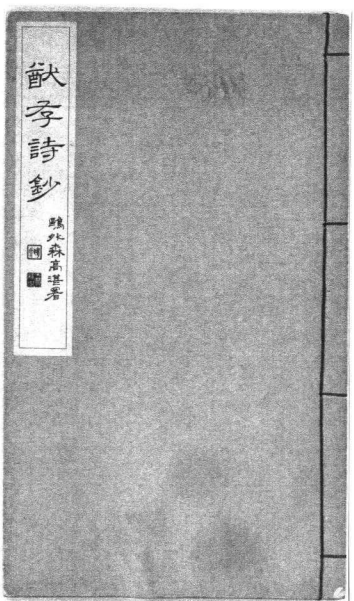


荒木博臣 あらかしひろみち 司法官、漢詩人。天保八年十月七日肥前國佐賀郡生れ、大正三年四月十七日歿（八三—一九一四）。舊姓山口、字君受、幼名權六、通稱權六郎。號白縫。藩賢弘道館に學び、のち藩命により昌平坂學問所に入る。歸藩後の元治元年、荒木家に婿養子となる。明治五年司法省出仕、翌年司法卿江藤新平の抜擢により累進。九年大阪上等裁判所詰、翌年福島裁判所所長、十九年大阪控訴院評定官。その後東京に戻り、二十二年大審院判事となつたのを最後の二十七年退官。三十五年長女まぶげが森鷗外と再婚、小説と書き始めて作家として知られた。夙に漢詩文に能くし、晩年鷗外が題簽を署した『猶存詩鈔』（大正二年二月八日荒木希太郎・荒木三雄編刊）を上梓。



猷亨詩鈔

森鷗外著